

「無形資産 (知識、ノウハウ、能力)」マネジメント支援ソフトウェアスイート



## 製造業の知識、ノウハウ、能力を資産化し価値創造に活かす

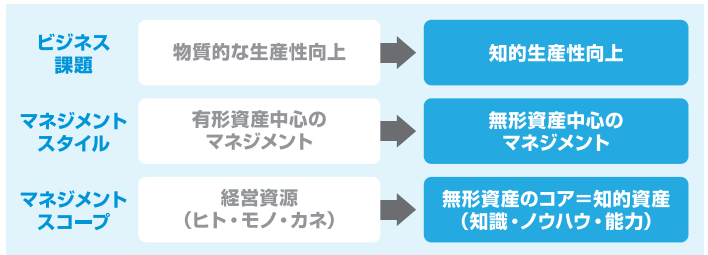
ID Suiteは、「知識、ノウハウ、能力」という「無形資産」を、知的生産性向上に活かすため、YDC 共動創発独自のデザインモデル (Design Model) 構築方法論に基づき開発された、「無形資産 (知識、ノウハウ、能力)」マネジメント支援ソフトウェアスイートです。

ソフトウェアスイートに含まれる個々のツールは、製品開発プロセス改革を支援するコンサルティングサービスで数多くの実績があります。この複数のツールの連携を強化し、これまで以上に活用できるよう開発されたのがID Suiteです。

### 新しい製造業の課題と現状

これからの製造業の課題は、新たな価値を産み出すという知的生産性の向上であり、企業の競争力の源泉も「有形資産」から「無形資産」に大きくシフトしています。

しかし重要な「無形資産」である知識、ノウハウ、能力は属人的な資産とし、組織的にマネジメントする事を諦め、知的生産性向上のために活かしてきていないのが多くの製造業の現状です。

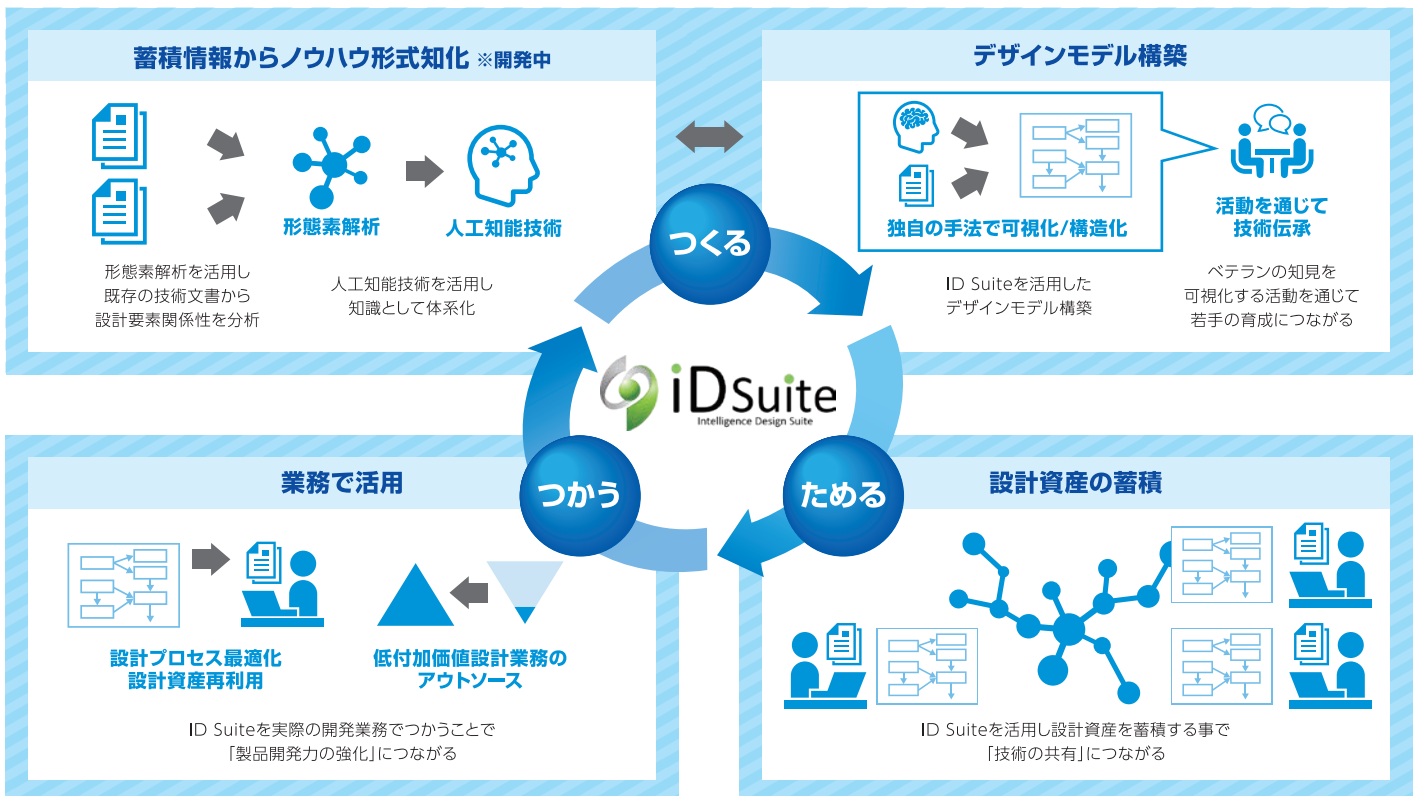


### 「無形資産」をモデル化し活用する

製造業の競争力の源泉である「無形資産 (知識、ノウハウ、能力)」を組織的にマネジメントするためには、この見えざるものを可視化・構造化し、再利用可能な形で管理 (モデル化) する必要があります。この「無形資産」をモデル化したものをデザインモデル (Design Model) と呼びます。YDC 共動創発独自のデザインモデル構築方法論に基づき開発されたID Suiteを用いることで、コンサルティングノウハウを元にお客様自身で課題解決を実現できます。

### ID Suite活用の将来像

目指すべき将来像は、製造業における知的生産活動とそのマネジメントを有機的につなぎ、相乗効果を創出する事です。その為にも、ID Suiteを用いたデザインモデルを構築し、それを中心としたマネジメントサイクルを確立する事が重要となります。



## 機能・特徴

膨大かつ複雑な無形資産(知識、ノウハウ、能力)の可視化・活用を可能にする強力なツール群

ID Suiteは、製品やサービスを創造する思考プロセスを可視化(Modeling)し、新たな知識を付加する編集(Curation)や、活用しやすくする知識構造化(Structuring)、そして新たな気づきを獲得するための視覚化(Visualization)の機能を連動する機能群としてデザインされていることが最大の特徴となります。

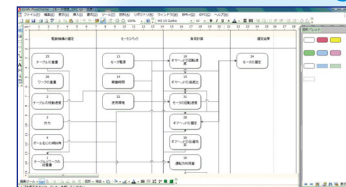
### IDFC

#### 思考プロセスの可視化

製品やサービスを創造する設計プロセス=思考プロセスは、非常に複雑、不明確かつ膨大な暗黙知の状態にあります。これを明示的な形に変えたとともにデータ化することで、継続的に改善しながら活用できる資産にすることが可能となります。

IDFCは、設計時の思考プロセス全体像を技術者がイメージしやすい設計フロー図の形で可視化しながら、デザインモデルの形でデータ化する事ができます。更には、設計フローに知識を蓄積することで技術伝承が可能となり、波及性確認機能により設計変更時の検討抜け漏れのチェックやレビューが効率的に行えます。

### Modeling



### Curation

### ID Element

#### 設計要素・関係性データの知識化

設計時の思考プロセスを可視化しただけでは、組織として活用し新たな価値を産むには不完全であり、複数の情報を繋げて編集することによる知識化の作業が必要となります。

ID Elementは、デザインモデルを構成する設計要素に関する情報(記述、ロジック、検討根拠など)や、要素間の関係情報を表形式で容易に編集することができ、知識化を推進します。また知識化の過程で、新たな知識を発見したり、次世代の製品開発に活用するために知識を再定義する事に繋がります。

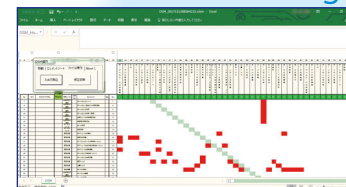
### ID DSM

#### 思考の構造化・最適化

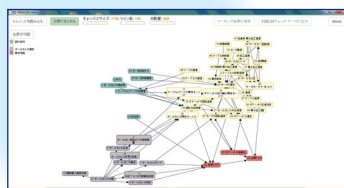
思考プロセスから知識を抽出しても、複数知識の関連が有効でなければ新たな価値は産み出す事ができません。つまり設計要素間にある因果関係を可視化・分析する知識の構造化、更には有効性を向上させるための最適化が重要となります。

ID DSMは、Design Structure Matrixというモデリング手法を用いた分析を行う事ができます。このDSM分析機能を用いる事で、設計要素の関係性を分析し、製品構成・仕様構造の構造化(モジュール化)、設計手順の最適化を行う事ができます。

### Structuring



### Visualization



### ID Network view

#### 思考MAP・関係性の視覚化

デザインモデルを蓄積していくと、それは非常に複雑かつ膨大な知識のネットワークとして育っていきます。しかし情報が膨大になればなるほど、視覚化し、全体把握を容易にしたり、人が感覚的に分析できるようにすることが重要になってきます。

ID Network viewは、複雑かつ膨大な設計要素間の関係性や影響範囲の全体像マップをネットワーク図形式で見える化できます。これにより組織内で俯瞰的なモデルで共有や討議が可能になりデザインレビューなどに活用できます。また、感覚的にとらえる事ができるため、設計ガイドラインとしての活用も可能です。

企業に、感動という付加価値を。

## 株式会社ワイ・ディ・シー

〒141-0032

東京都品川区大崎1-2-2 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー

TEL : 03-5740-5762

E-Mail : advocacy-sales@ydc.co.jp

URL : https://www.ydc.co.jp